



下條正男

しもじょう・まさお 長野 期竹島問題研究会の座長を務
身。国学院大学院博士 めた竹島研究の第一人者。23
課程修了。1999年から拓 年3月まで本紙客員論説委員
殖大教授を務め、2021年 を務めた。拓殖大名誉教授、
3月末で退官。島根県の第5 島根県立大客員教授。75歳。

島根県は、江戸時代前期に竹島(韓国名・独島)で漁をしていた米子の商家村川家に関する「村川家文書」の翻刻作業を終え、1月13日に県竹島問題研究所のサイトで公開した。県は絵図や古文書など村川家に関する71点を取得していた。

その日の記者会見では、竹島を描いた「松島之図」(松島は現在の竹島を指す)と、島根半島や隠岐諸島、竹島、韓国・鬱陵島が一体に書かれた「雲州美穂関より隠岐松島竹島全図」についても解説した。

「松島之図」は、村川家文書の中の「雲州美穂関より」とともに、村川家と同じ米子の商家大谷家が江戸時代前期に、現在の竹島でアシカ猟を行っていたことを示す証拠である。韓国側には、竹島を単独で描いたこの種の地図はなく、同時期に竹島を実効的に活用していた事実を示す文献も存在しないからだ。「村川家書類目録」によると、村川家には「松島之図」と「雲州美穂関より」が2枚ずつあったという。県が入手した「松島之図」は、1987年に米子市立山陰歴史館の特別展で展示されたのを最後に、その所在が分からなかった。

■絵図二つに関係

二つの絵図には関係がある。「雲州美穂関より」の注記には「本書之図と申候ハ古(正しくは小)谷伊兵

村川家文書の「松島之図」



現在の竹島を描いた「松島之図」(島根県提供)

竹島でのアシカ猟実証

衛殿方二御座候を写申候」とあり、「松島之図別紙有り」としているからだ。

注記によれば「雲州美穂関より」は1696年、鳥取藩の小谷伊兵衛が幕府に提出した「小谷伊兵衛より差出候竹嶋之絵図」の写しで、「松島之図」はその際に「此図少々相違有之詳ハ可見別図委細少々之小濱小谷迄書記ス」としていた村川家の絵図である。

その「松島之図」の松島は、「小谷伊兵衛より差出候竹嶋之絵図」に描かれている松島に比べると実際の竹島の姿に近く、周辺の岩礁もほぼ正確に描かれている。さらに「小濱小谷迄書記ス」とした小浜には「小濱拾遺問」「小濱拾貳問」「瀬戸長さ二町」な

どとした付箋が貼られ、浜に複数の楕円や四角、不定形の図形が小さく描かれている。これはアシカの繁殖場を示しているのである。

■漁獲の公平保つ

現在の竹島を示す松島でアシカ猟が行われていた事実は、公開された村川家と大谷家文書で確認できる。

大谷家文書では、1659(万治2)年ごろから「竹島近所松島渡船之儀」が持ち上がり、翌60年、旗本阿部四郎五郎の家臣亀山庄左衛門が大谷家宛に「竹嶋之内松嶋」への渡海は、「御老中様へ得御内意申候」と、老中から許可が下りたと伝えていた。

さらに81(天和元)年12

「」を作図したが、それに比べると「松島之図」の作図年代は少し古いと見られた。

いずれにせよ、この種の竹島地図は竹島を単独で描いた最古の地図の一つで、江戸時代前期に日本が現在の竹島を正確に認知し、経済活動を実効的に行っていた証拠である。

会見から3日後、韓国の反日活動家の徐珂徳氏一行が島根県の竹島資料室を訪れ、公開中の大谷家文書や村川家文書を1時間ほど閲覧した。だが後日、徐氏がX(旧ツイッター)で問題にしたのは、杯に描かれた竹島やTシャツなど竹島グッズのことだけだった。これでは猫に小判である。